

委員会に所属しての感想文

組織再編に付いて

第9回委員会報告書に、クラブ合併体験談話の内容「難しさ」と「良かった事」と「良くなかった事」等々を記載しております。

今後、合併を予定されているクラブを含め、その他のクラブの方々も是非一度お読み下さい。

クラブ合併について

合併時は、メンバー数、運営・事業資金も豊になり合併効果があることがわかった。しかしながら、合併後は様々な理由でメンバー数の減少に歯止めがかからないのはどのクラブでも共通の課題である。

出身者同志での分裂や人間不信。高齢メンバーの退会の機会など考えられるが、合併までの良いエネルギーが、合併後の運営にいかされないのは残念である。

合併を新たなエクステンションとし、R.C.やZ.C.を初め、公認ガイディングライオンなど第三者が見守る必要があるのではないだろうか。

田園調布、中央LCの現状が共通しているのが課題である。

クラブ合併について

クラブの合併は多くの困難があります。

両クラブが解散をして、新しいクラブを作ることが望ましいと思います。

組織再編について

1Z・2Zのほとんどのクラブにメンバーの減少の危機感があります。大きな理由は、新入会員を確保出来ないことです。そんな中でも、各クラブは先輩から受け継いだアクティビティを、チャリティを行いながら継続しています。危機感が有っても合併を真剣に考えているクラブは、ありません。自分たちの時代で、自クラブが「消滅しても良い」とさえ思っている感さえあります。事実来期、13R2Zでは、田無LC以外でZCを出したいクラブはありません。

各クラブのメンバーが現在の半分か3分の1くらいにならないと、本当の危機感は芽生え無いのでしょうか？ 各クラブには中心的なメンバーがおりますが、クラブの中で力が強すぎる場合、新メンバーを入り難しく、現メンバーの退会につながる恐れもある様に思われます。ZCの活躍が最も重要で、次のZCと各クラブ会長や第一副会長を集った委員会的な組織を作り問題解決に努力をするべきと考えます。

組織再編に関すること

昨今多くのクラブに於いて、メンバーの減少、高齢化がみられるが、かと言って皆が合併を望んでいるとは思えない。現に我がクラブに於いても、合併は望んでいません。し

かし、メンバーの減少、高齢化でクラブ例会・アクティビティ等が減少しない様にする為に、他クラブとの合同例会・合同アクティビティ（2クラブに限らず複数クラブ共）を年に数回開催し意識の供用を図る様に考えている。あくまで各クラブのメンバー増員が望ましいが、この様に合併までしないが各クラブと合同例会・合同アクティビティ等を行う事で、クラブのモチベーションを高めるのも一考えと思います。

組織再編について

合併には、各クラブ互いの都合や理念の違いが多く、クラブポリシー、考え方の差が大きいと感じました。

組織再編について

クラブ訪問を通して、少人数クラブの実情を知ると共に、合併と言う組織再編の難しさを体感致しました。誰も自ら所属クラブの解散を望むメンバーはいないと思いますが、合併の方法は体験されたメンバーのお話を聞くと、（大変ですが）よりベターな形がある様です。今後も模索していくべきです。

組織再編について

実際にクラブの合併は困難、 $10+10=20$ にならず15とか12に成り、解散し、どちらにもとられずに、新しいクラブを結成した方が、成功率が高い様に思われます

コンプライアンスについて

我々日本人は、遠く鎌倉時代以前にさかのぼり、今の高知県梶原（ゆずはら）で発祥した坂東武士（開拓農民でありながら勇猛果敢に戦った人々）の精神を受け継いでいると思われます。

彼らは「名こそ惜しけれ」（恥ずかしい事をしない）という言葉に代表されるように、その精神は、脈々と今日まで繋がり、戦国時代に北条早雲は、「早起き。嘘をつかない。恥じることはしない。」というものです。そして「公の意識」（領土のために）を高めました。

その後、秋田県日新町に貧しい下級武士の栗原定之丞は、秋田に14年間で述べ7万人の人々の力を借りて80Kmの防風林を植林しました。ここで「公の精神」（地域のために）が生まれました。

「名こそ惜しけれ」 ⇒ 「公の意識」 ⇒ 「公の精神」

公の精神（地域のために）は、今のライオンズクラブに生かされていると思います。

この坂東武士の精神は、今の日本人に受け継がれているはずですが、何故か受け継がれていない日本人が居るようです。

今期の特別委員会として、「組織再編・コンプライアンス（法令遵守）委員会」が設立されました。何故ならば、昨今 当地区はコンプライアンスが実行されていないためでは

ないでしょうか。

今期を振り返って見てください。コンプライアンスが実行されていないことを指折って数えれば幾つか思い出されるでしょう。あえて具体的には申し上げません。

「己の欲せざるごと 他人にすること無かれ」という諺があります。(自分にして欲しくないことは、人にはしない、人にしてはいけない)ということです。

発言・行動をするときは、この諺をいつも思い出して下さい。そうすれば自ら色々な規則を遵守し、発言・行動することが出来て、「コンプライアンス」という言葉など必要無いのです。

ライオンズクラブのモットーは、「われわれは奉仕をする」です。

奉仕する者同士に争い、競争、誹謗・中傷、脅迫するような行為は必要ありませんし、してはいけないのです。

奉仕をさせて頂いた相手に喜んで頂き、奉仕した我々はその喜びに対して謙虚に幸せを感じる事が本来の姿ではないでしょうか。

今一度、自らを反省し、ライオンズ必携の10ページ記載の「スローガン」「モットー」「ライオンズの誓い」等々と161ページ記載の「文書配布の規制」を読んで下さい。

コンプライアンスについて

当期において、事業予算の増大は個人負担。誹謗中傷文書の流布など問題点が数多くあった。同じライオンズマンとして恥ずかしい思いでいっぱいになる。

国際協会のルールが基本であることは理解しているが、ローカルルールとして厳格に対処できないのだろうか。

管轄下におかれているNPO法人や他の公益法人などに比べて、日本に於いて人格のない団体である我々はだからこそ公益法人に負けないルールが必要なのではないか。

責任の無さがこれからも続くと思うと正直うんざりである。

ライオンズクラブのおおらかで包容力は好きだが、問題に対処できないことが永久に続くのはダメ・ゼッタイ。

コンプライアンス（法令遵守）について

第一副地区ガバナー、第二副地区ガバナー選出には、B地区・C地区同様にボイスボウドではなくて、投票による選出が望ましいと思います。

選挙管理委員会には不正が確認された場合、立候補の取り消し等の強い権限を与えることが望ましいと思います。

コンプライアンスの実行を願います。

コンプライアンス

「組織の規則、決められた事に従う」と、理解します。

13Rでは、会費の未納や特別なトラブル情報は、無かったと思います。

個人的意見で恐縮ですが、次期のリーダーを決めるキャビネット主導の選挙時は、立候補者又は立候補者予定者に対して、選挙管理委員会は、贈り物の金額・イベント負担金の割合など決めたり、「違反に関する注意」を事細かくするべきで、違反者に対し強制力を持つべきと思います。「怪文書」などに対しては、徹底的に追求し罰則規定があるべきと考えます。

コンプライアンスに関すること

コンプライアンスとは法の遵守であり、ライオンズメンバーであるならライオンズ憲章を遵守しなければならないと考えるが、今期の第二副地区ガバナー選挙に際しても当然選挙規約にてらし、数々の違反事項（無記名による怪文書、選挙用ハガキの寸法違反、飲食を伴う依頼等々）が見られた。そして、その違反事項に対して何のともがめも出来ない選挙管理委員会。そして、その結果誕生したガバナーに、我々メンバーは信頼と希望を本当に託す事が出来るのか、はなはだ疑問でライオンズの未来に対して失望を感じる。このような事柄を鑑みて、ライオンズの未来を見据えるのに組織再編・コンプライアンス委員会の継続が必要と思われれます。

コンプライアンスについて

ライオンズメンバーの中に倫理観の欠如している方が、少なからず居ると思います。クラブの運営が、ライオンズ必携通りに行われていないクラブが散見されます。組織再編・コンプライアンス委員会が、ガバナーと共に指導できる力を持つ組織に発展することを望みます。

コンプライアンスについて

除名のガイドラインの提言と言う課題については、大変重要であり、その対象がクラブ対メンバーの場合、ほとんど解決は難しく、リジョン・チェアパーソン、ゾーン・チェアパーソン、ガバナーチームの一貫した意見統一の基に、今期の委員会の様な「相談・仲裁委員会」を継続して設置をすべきと考えます。

コンプライアンスについて、通常社会生活における倫理遵守、ライオンズメンバーであれば所詮、常識です。（色々な意味で失望致しました。）

コンプライアンスについて

- 1、最近、国際会則・付則に無い補助的な指名された役職が、代議員の投票により選出された役職の上の役職に就くプロトコールが生まれ、組織を破壊する現象を感じます。
- 2、キャビネットの委員会の数を縮小すべきで、又一委員会の人数も減らし、原点に戻り見直し要望します。
- 3、RC/ZC/の活用を促進。各クラブとの綿密連絡を取るようにする。

難しい問題に取り組む委員会ではと思い最初は戸惑いましたが、色々な問題に触れ少しずつ勉強させて頂き、楽しく 10 ヶ月がアツと言う間に過ぎて行きました。

① 今まで気にならなかった自クラブの事を考える様になりました。

(ご高齢の方や第一線を退かれた方々がクラブを辞めて行かれる一方、若い新入会員の方が友人を誘い入会して下さる方もあり、減っては増え、増えては減る で増減はあっても人数は変わらず クラブの平均年齢が若返りしております。若いパワーで今まで取り組めなかった新しいアクティビティにも取り組んで行くそんなクラブになりつつあります。)

② 他クラブの悩み事に耳を傾ける様になりました。

(一昨年 8 R 1 Z で Z C を仰せつかりました。他クラブの方々と接せる機会を得て、幾つかのクラブの会員数が減少する傾向にある事をお聞きしました。家族会員を増やしても正会員が減少していく中で合併はしたくないし、自分達でなんとかやって行けない物かと言うお悩みでした。)

③ 合併されたクラブのお話を聞く事が出来、大変勉強になりました。

(ライオンズクラブのモットーの様に、クラブ運営にも優しさと寛容を持って人々と接すれば、解散や合併等のない全てが丸く治まる素晴らしいクラブが、維持出来るのではないかと考えています。)

感想

委員長の基、副委員長 3 名、委員 4 名、アドバイザー 3 名、サポーター 1 名のスタッフでスタートし、ライオンズクラブの現状とこれからのあるべき型を考え、提案、調整することをガバナーより諮問された専門委員会と思いました。

330-A 地区が 200 クラブになって来たのにはアンケートでも感じられた様に本音と立前に於いてクラブ運営が行われ、もちろん必携等は遵守されて運営されていることは間違いなくと思いますが、奉仕の型の基本である人の為に、地域の為に がライオンズクラブの為に成っていることを感じます。

200 クラブの中で互助の気持だけで回っている様に、それがアクティビティになっているのを感じ、合同アクティビティ、合同例会にしても今の現状を感じ、委員会で良い方向にすすめることが出来なかったことを残念に思えました。

以上、組織再編・コンプライアンス委員会の委員 12 名の切なるお願いです。

今後の 330-A 地区のライオンズクラブの活動に、発言に、行動に、コンプライアンスの実行を期待して、今期この委員会を終了します。